

## ◎令和6年度横須賀市児童生徒体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

社会環境や生活様式の変化などにより、生活習慣の乱れや運動の機会の減少が問題となっています。健康の保持増進・体力の向上のためには、望ましい生活習慣、運動習慣の確立が求められますが、そのためには、学校と家庭との連携が必要です。

子どもたちの体力・運動能力や運動習慣等の現状を理解していただくとともに、学校教育活動にも積極的なご支援をいただくためにも、本年度も本市の状況および課題について報告いたします。

### 1 横須賀市児童生徒体力・運動能力、運動習慣等調査の調査について

市立小学校3～6年生と中学校1～3年生を対象に「横須賀市児童生徒体力・運動能力、運動習慣等調査」を、令和6年4月～7月に実施しました。

本市が実施している調査は、文部科学省が実施している「全国体育・運動能力、運動習慣等調査」の対象である小学校5年生および中学校2年生と比べ、調査範囲を大きく拡大し、また、分析データを児童生徒一人一人にフィードバックすることにより、家庭の協力を得ながら、効果的な取り組みにしていくことを狙いとして実施しています。

令和6年度から、神奈川県立保健福祉大学、味の素株式会社および横須賀市教育委員会の三者で産学官連携協定を締結し、大学はスポーツ栄養学や健康科学に基づく分析や助言、味の素株式会社は本調査にかかる資金協力および健康教室の開催（2月末に実施予定）等、児童生徒の健康の保持増進および体力向上について多方面から取り組みを行っています。

#### （1）調査の目的

横須賀市立小学校および中学校に在籍する児童生徒の体力・運動能力、運動習慣等調査を実施し、状況を把握する。また、調査結果を集計・分析し、各学校や各個人に還元するとともに、横須賀市として必要な健康・体力向上推進に関する施策の策定や、各学校の取り組みの工夫改善に役立てることを目的としています。

#### （2）調査の対象および内容

##### ア 調査対象者

- ・横須賀市立小学校及び特別支援学校小学部の3～6年生全員
- ・横須賀市立中学校及び特別支援学校中学部の1～3年生全員

##### イ 調査内容

- ・実技に関する調査（新体力テスト）
- ・生活習慣、運動習慣等に関する調査

ウ 実技に関する調査種目（8種目）

		テスト項目						
小学生	握力	上体起 こし	長座 体前屈	反復 横跳び	20m シャトルラン※1	50m 走	立ち 幅跳び	ソフト ボール 投げ
中学生					20m シャトルラン または持久走※2			ハンド ボール 投げ

※1 往復持久走(一定の間隔で鳴る電子音に従って20mを走り、折り返し回数を測定)

※2 男子は1500m走、女子は1000m走

エ 評価基準表

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
A	53以上	59以上	65以上	71以上	51以上	57以上	60以上
B	46～52	52～58	58～64	63～70	41～50	47～56	51～59
C	39～45	45～51	50～57	55～62	32～40	37～46	41～50
D	32～38	38～44	42～49	46～54	22～31	27～36	31～40
E	31以下	37以下	41以下	45以下	21以下	26以下	30以下

※各実技種目（8種目）の結果を10点満点で換算し、合計80点満点で上記基準表に基づき、A～Eの評価を判定

(3) 調査の実施時期

令和6年4月～7月

(4) 調査の実施状況

		調査対象児童生徒数 (A)	実施児童生徒数 (B)	実施率 (B/A)
小学校	3年生	2,586	2,452	94.8%
	4年生	2,721	2,601	95.6%
	5年生	2,699	2,587	95.9%
	6年生	2,772	2,662	96.0%
中学校	1年生	2,785	2,612	93.8%
	2年生	2,887	2,673	92.6%
	3年生	2,795	2,601	93.1%

(5) 運動習慣・生活習慣等に関する本市独自調査（県立保健福祉大学との連携調査）

文部科学省が実施する一般的な調査項目に加え、市独自の運動習慣・生活習慣等に関わる調査項目を追加して調査を実施しています。【令和5年度から継続実施】

※令和6年度独自調査 計49問（内訳）

- ・睡眠に関する内容（7問）
- ・運動に関する内容（3問）
- ・不定愁訴に関する内容（10問）
- ・食事に関する内容（24問）
- ・その他体調面に関する内容（3問）

[例1：睡眠] ※全7問

全国調査
1. 毎日どのくらい寝ていますか。 （6時間未満、6時間以上7時間未満、7時間以上8時間未満、8時間以上9時間未満、9時間以上10時間未満、10時間以上）
市独自調査
1. 学校のある月曜日から金曜日は、だいたい何時に起きていますか。 2. 学校のある月曜日から木曜日は、だいたい何時に寝ていますか。 3. 学校のある金曜日は、だいたい何時に寝ていますか。 4. 土曜日は、だいたい何時に起きていますか。 5. 土曜日はだいたい何時に寝ていますか。 6. 日曜日はだいたい何時に起きていますか。 7. 日曜日はだいたい何時に寝ていますか。 （・時間はすべてプルダウン選択 ※10分単位）

[例2：不定愁訴（原因不明の心身の不調）] ※全10問

全国調査
なし
市独自調査
1. 「たちくらみ」や「めまい」をおこすことがありますか。 2. 朝なかなか起きることができず、午前中に体の調子が悪いことがありますか。 3. 体のだるさや疲れやすさを感じるがありますか。 4. 何もやる気がおきないことがありますか。 5. イライラすることがありますか。 6. 授業に集中できないことがありますか。 7. 授業中に居眠りをしてしまうことがありますか。

8. 頭が痛くなること（頭痛）がありますか。
9. おなかがいたくなること（腹痛）がありますか。
- （ ・ よくある（ほぼ毎日） ・ ときどきある（週に1～2日くらい）  
 ・ たまにある（月に1～3日くらい） ・ まったくない ）
10. 学校にいるとき、トイレ（排便・排尿）にだいたい何回行きますか。
- （ ・ 0回 ・ 1回 ・ 2～3回 ・ 4～5回 ・ 6回以上 ）

## 2 調査結果について（概要）

### （1）体力（各種目・合計点）に係る内容 ※P5～10 参照

- ・ 体力下位層（新体力テストの総合評価がD・E）の児童生徒の割合（%）
- ・ 体力上位層（新体力テストの総合評価がA・B）の児童生徒の割合（%）
- ・ 体力合計点の推移
- ・ 各種目結果の推移【小5、中2対象】

#### <調査・分析結果>

- ・ 体力等調査結果と市体育的行事との関連性

### （2）内面（意識）に係る内容 ※P11～15 参照

- ・ 運動やスポーツが「好き」または「やや好き」と回答する児童生徒の割合（%）
- ・ 運動やスポーツが「大切」または「やや大切」と回答する児童生徒の割合（%）
- ・ 体育・保健体育の授業が「楽しい」または「やや楽しい」と回答する児童生徒の割合（%）

#### <調査・分析結果>

- ・ 「授業に対する捉え」と「助け合い・教え合い」とのクロス集計
- ・ 「授業に対する捉え」と「ICT活用」とのクロス集計

### （3）運動習慣・生活習慣に係る内容 ※P16～21 参照

- ・ 朝食を「食べない」または「食べない日が多い」と回答する児童生徒の割合（%）
- ・ 1日の睡眠時間が「6時間未満」と回答する児童生徒の割合（%）
- ・ 1週間の総運動時間が「0分」と回答する児童生徒の割合（%）
- ・ 平日における1日あたりの「総スクリーンタイム」の時間別割合（%）

**(1) 体力（各種目・合計点）に係る内容**

※新体力テストの数値（評価）および総合評価の割合については、学年・性別によって尺度が異なるため、同一集団の経年変化を追うことは難しい。

①体力下位層（新体力テストの総合評価がD・E）の児童生徒の割合（%）

※割合が低下するほど、よい傾向

＜小学校＞

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
R6 結果	27.3	33.0	30.0	33.2	30.8	31.9	29.8	32.0
前年集団との差	<b>-4.1</b>	2.1	<b>-6.6</b>	<b>-3.9</b>	2.4	0.9	<b>-0.2</b>	3.9

＜中学校＞

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
R6 結果	31.0	21.9	21.5	11.4	14.1	20.5
前年集団との差	<b>-3.0</b>	<b>-11.2</b>	<b>-3.3</b>	<b>-1.7</b>	<b>-4.9</b>	1.2

②体力上位層（新体力テストの総合評価がA・B）の児童生徒の割合（%）

＜小学校＞

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
R6 結果	31.4	29.6	29.6	28.2	28.1	30.7	27.4	28.2
前年集団との差	<b>1.9</b>	-5.0	<b>2.8</b>	-2.0	-1.1	-0.3	-4.3	-5.9

＜中学校＞

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
R6 結果	20.1	30.7	33.5	49.4	47.6	36.0
前年集団との差	-4.7	<b>2.9</b>	-5.5	-1.8	<b>6.7</b>	-7.5

## 結果および考察

### 結果

#### 【小学校】

体力下位層（D・E）の割合については、前年集団の数値と比較し、男子では、小4を除き、数値が大きく低下しました。逆に、女子では、小5を除き、数値が上昇しました。

体力上位層（A・B）の割合については、前年集団の数値と比較し、男子では、半数の学年で数値が上昇（半数の学年で数値が低下）しました。また、女子では、すべての学年で数値が低下しました。

#### 【中学校】

体力下位層（D・E）の割合については、前年集団の数値と比較し、男子では、すべての学年で、数値が大きく低下しました。女子においても、中3を除き、数値が低下しました。体力上位層（A・B）の割合については、前年集団の数値と比較し、男女ともに、中2を除き、数値が大きく低下しました。

### 考察

小学校男子では、「体力下位層（D・E）」の割合が低下し、改善傾向が見られます。しかし、その一方で、小学校女子においては、「体力下位層（D・E）」の割合が上昇し、さらには、「体力上位層（A・B）」の割合もすべての学年で低下するなど、体力低下が数値として顕著に表れています。

中学校については、男女ともに「体力下位層（D・E）」の割合が低下し、改善傾向が見られます。しかし、その一方で、「体力上位層（A・B）」の割合も半数の学年で低下しており、中間層の割合が増えています。

### ③「体力合計点」の推移

※点数が高いほど、よい傾向

#### <小学校>

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
R6 結果	42.31	47.17	52.94	57.43	41.78	47.76	53.02	57.55
前年集団との差	<b>0.75</b>	-0.54	<b>1.30</b>	<b>0.15</b>	-0.10	<b>0.16</b>	-0.46	-1.44

#### <中学校>

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
R6 結果	33.98	42.97	47.51	43.35	48.04	48.63
前年集団との差	-0.47	<b>2.41</b>	<b>0.02</b>	<b>0.27</b>	<b>2.75</b>	-1.17

### 結果および考察

#### 結果

##### 【小学校】

体力合計点については、前年集団の数値と比較し、男子では小4を除き、数値が上昇しました。(最大は1.30ポイント)逆に、女子では、小4を除き、数値が過去最低を示しました。

##### 【中学校】

体力合計点については、前年集団の数値と比較し、男子では中1を除き、数値が上昇しました。(最大は2.41ポイント)女子では、中1・2は数値が上昇しましたが、中3については過去最低を示しました。

#### 考察

小学校男子では、改善傾向が見られます。逆に、女子では、前述の、「体力下位層(D・E)」の割合が上昇・「体力上位層(A・B)」の割合が低下」の影響もあり、3つの学年(小3、小5、小6)において、体力合計点が過去最低値を示すなど、大きな課題が見受けられます。

中学校では、男女ともに第2学年において大幅な改善傾向が見られます。しかし、3年女子については、過去最低値を示すなど、課題が見られ、小・中学校共通して、女子の体力に大きな課題が見受けられます。

全体を通して、男子については小・中学校ともに、学年によって多少の差はあるもののコロナ禍以前の水準に戻っています。

#### ④「各種目」結果の推移

※50m 走については、割合が低下するほど、よい傾向

##### <小学校第5学年 男子>

	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横跳び	20m シャ トルラン	50m 走	立ち 幅跳び	ソフトボ ール投げ	体力 合計点
R6 結果	16.56	19.67	34.27	39.30	48.61	9.40	151.82	19.87	52.94
R6 全国結果	16.02	19.19	33.79	40.67	46.90	9.50	150.46	20.74	52.54
R6 全国と の差	<b>0.54</b>	<b>0.48</b>	<b>0.48</b>	-1.37	1.71	<b>-0.10</b>	<b>1.36</b>	<b>-0.87</b>	<b>0.40</b>
前年集団 との差	<b>0.18</b>	<b>0.66</b>	-0.09	<b>0.60</b>	<b>3.78</b>	<b>-0.12</b>	<b>1.79</b>	<b>0.76</b>	<b>1.30</b>

##### <小学校第5学年 女子>

	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横跳び	20m シャ トルラン	50m 走	立ち 幅跳び	ソフトボ ール投げ	体力 合計点
R6 結果	15.99	18.22	37.75	36.16	35.14	9.70	143.25	12.77	53.02
R6 全国結果	15.78	18.16	38.21	38.71	36.60	9.76	143.18	13.15	53.93
R6 全国と の差	<b>0.21</b>	<b>0.06</b>	-0.46	-2.55	-1.46	<b>-0.06</b>	<b>0.07</b>	<b>-0.38</b>	<b>-0.91</b>
前年集団 との差	<b>-0.49</b>	<b>0.14</b>	-0.92	-0.59	<b>0.65</b>	<b>-0.06</b>	<b>-0.79</b>	<b>-0.08</b>	<b>-0.46</b>

#### 結果および考察

##### 結果

##### 【小学校 男子】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、「長座体前屈」を除き、すべての種目で数値が上昇しました。また、R6 全国調査と比較した結果、「反復横跳び」、「ソフトボール投げ」を除き、すべての種目で全国平均を上回りました。

##### 【小学校 女子】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、半数を超える種目で数値が低下しました。また、R6 全国調査と比較した結果、4種目で全国平均を上回ったものの、体力合計点では下回る結果となりました。

##### 考察

男子では、全国結果と比較し、大幅な改善傾向が見られます。逆に、女子では、体力合計点を含め、多くの種目で全国平均を下回り、特に「長座体前屈」、「反復横跳び」、「ソフトボール投げ」の種目に大きな課題が見受けられます。

⑤「各種目」結果の推移

※持久走、50m走については、割合が低下するほど、よい傾向

＜中学校第2学年 男子＞

	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横跳び	持久走	20mシャ トルラン	50m走	立ち 幅跳び	ハンドボ ール投げ	体力 合計点
R6 結果	27.16	27.16	45.86	51.85	403.38	79.52	7.94	201.50	21.20	42.97
R6 全国結果	28.91	25.82	44.32	51.49	411.68	78.65	7.99	197.16	20.49	41.69
R6 全国 との差	-1.75	<b>1.34</b>	<b>1.54</b>	<b>0.36</b>	<b>-8.30</b>	<b>0.87</b>	<b>-0.05</b>	<b>4.34</b>	<b>0.71</b>	<b>1.28</b>
前年集団 との差	-1.77	<b>1.07</b>	<b>1.67</b>	<b>1.80</b>	<b>-1.81</b>	<b>4.08</b>	<b>-0.08</b>	<b>5.88</b>	<b>1.02</b>	<b>2.41</b>

＜中学校第2学年 女子＞

	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横跳び	持久走	20mシャ トルラン	50m走	立ち 幅跳び	ハンドボ ール投げ	体力 合計点
R6 結果	22.30	22.30	47.20	45.45	315.14	50.20	8.90	168.13	12.54	48.04
R6 全国結果	23.14	21.47	46.44	45.67	309.90	50.48	8.96	166.22	12.32	47.22
R6 全国 との差	-0.84	<b>0.83</b>	<b>0.76</b>	<b>-0.22</b>	<b>5.24</b>	<b>-0.28</b>	<b>-0.06</b>	<b>1.91</b>	<b>0.22</b>	<b>0.82</b>
前年集団 との差	-0.89	<b>0.88</b>	<b>0.91</b>	<b>1.57</b>	<b>4.46</b>	<b>2.07</b>	<b>-0.10</b>	<b>4.66</b>	<b>0.47</b>	<b>2.75</b>

結果および考察

**結果**

【中学校 男子】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、「握力」を除き、すべての種目で数値が上昇しました。また、R6 全国調査と比較した結果、「握力」を除き、すべての種目で全国平均を上回りました。

【中学校 女子】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、「握力」、「持久走」を除き、すべての種目で数値が上昇しました。また、R6 全国調査と比較した結果、4種目を除き、全国平均を上回りました。

**考察**

中学校（第2学年）については、男女ともに、全国平均と比較し、改善傾向が見られます。種目に着目すると、男女共通して「握力」、女子では、さらに「持久系種目（持久走、20m シャトルラン）」に課題が見受けられます。

## <調査・分析結果>

### 【参考】体力等調査結果と市体育的行事との関連性

第56回小学校児童陸上記録大会 入賞者数上位校（全16種目）

A小学校	
・6年男子100m走	第3位
・6年男子走り幅跳び	第1位
・6年女子走り幅跳び	第1位（大会新）
・男子4×100mリレー	第1位
・女子4×100mリレー	第2位

### 【A小学校6年】

男子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール投げ	体力合計点
市平均	19.38	20.94	35.69	41.79	53.56	9.05	161.33	22.75	57.43
学校	<b>20.07</b>	<b>21.70</b>	34.59	41.52	<b>61.11</b>	9.08	<b>165.92</b>	<b>26.81</b>	<b>60.00</b>

女子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール投げ	体力合計点
市平均	19.04	19.03	40.43	38.93	38.67	9.36	151.11	14.35	57.55
学校	<b>20.53</b>	<b>21.80</b>	39.33	<b>39.40</b>	<b>42.13</b>	<b>9.33</b>	<b>154.07</b>	<b>16.73</b>	<b>60.53</b>

### 【考察】

今年度開催した第56回小学校児童陸上記録大会において、入賞者数が上位であったA小学校の体力調査結果に着目しました。6年男子では、3種目（長座体前屈、反復横跳び、50m走）を除き、市平均より高い数値を示しています。また、6年女子では長座体前屈を除き、すべての種目で市平均より高い数値を示しています。

結果として、標記大会に参加した一部の児童のみの数値が高いわけではなく、学校全体でよい傾向となったことがうかがえます。大切なのは、各学校が、「市体育的行事」を校内でどのように位置づけるのか、さらには、どのように関連させながら、日常的な体力向上の取り組みを推進していくかであると考えます。

### 【A小学校の主な取り組み】

- ・低学年時から体育（運動遊び）に力を入れて取り組んでいる。
- ・休み時間に校庭で、教員と一緒に遊ぶ習慣が身についている。その結果、放課後の学校開放においても、校庭を利用する割合が一番多い。
- ・「自立の時間」に積極的に体を動かす活動を取り入れている。

(2) 内面（意識）に係る内容

①運動やスポーツが「好き」または「やや好き」と回答する児童生徒の割合（％）

<小学校>

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
R6 結果	95.8	94.2	94.2	93.0	92.6	91.9	89.4	81.0
前年集団との差	-0.3	-1.1	0.0	<b>0.8</b>	-0.9	<b>0.7</b>	<b>3.2</b>	-2.3

同一集団の経年変化

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
前年時の値		96.1	95.3	94.2		93.5	91.2	86.2
前年時との差		<b>-1.9</b>	<b>-1.1</b>	<b>-1.2</b>		<b>-1.6</b>	<b>-1.8</b>	<b>-5.2</b>

<中学校>

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
R6 結果	93.9	93.7	92.5	81.4	80.3	79.4
前年集団との差	<b>0.9</b>	-0.2	-0.1	<b>0.4</b>	<b>2.3</b>	-0.6

同一集団の経年変化

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
前年時の値	93.0	93.9	93.7	81.0	81.4	80.3
前年時との差	<b>0.9</b>	<b>-0.2</b>	<b>1.2</b>	<b>-0.4</b>	<b>1.1</b>	<b>0.9</b>

結果および考察

**結果**

【小学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、男子は全体的に横ばい傾向、女子では小5が3.2ポイント上昇、小6が2.3ポイント低下しました。しかし、同一集団の経年変化に着目すると、すべての学年・性別で数値が低下しました。(1.1～5.2ポイント)

【中学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、全体的に横ばい傾向でしたが、中2女子が2.3ポイント上昇しました。同一集団の経年変化については、中2男子・中1女子を除いて数値が上昇しました。(0.9～1.2ポイント)

**考察**

小学校については、男女ともに大幅な低下傾向が見られます。(※数値自体が高いことには留意しなければならない) 特に、6年女子の低下率が顕著であることから、学年が上がるにつれ「運動やスポーツ」に対する関心・意欲が低下している可能性が考えられます。逆に、中学校では、男女ともに改善傾向が見られ、主な要因として、部活動の影響や運動やスポーツの楽しさを再認識する機会が増えること等が考えられます。

②運動やスポーツが「大切」または「やや大切」と回答する児童生徒の割合 (%)

<小学校>

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
R6 結果	95.2	95.8	94.4	94.6	95.3	94.2	93.0	91.2
前年集団との差	<b>0.2</b>	<b>0.2</b>	<b>-0.3</b>	<b>-1.5</b>	<b>-0.1</b>	<b>-0.3</b>	<b>0.5</b>	<b>-1.1</b>

同一集団の経年変化

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
前年時の値		95.0	95.6	94.7		95.4	94.5	92.5
前年時との差		<b>0.8</b>	<b>-1.2</b>	<b>-0.1</b>		<b>-1.2</b>	<b>-1.5</b>	<b>-1.3</b>

<中学校>

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
R6 結果	96.3	95.5	94.3	90.4	87.4	88.4
前年集団との差	<b>1.5</b>	<b>1.7</b>	<b>-1.8</b>	<b>-1.3</b>	<b>0.5</b>	<b>0.3</b>

同一集団の経年変化

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
前年時の値	96.1	94.8	93.9	92.3	91.7	86.9
前年時との差	<b>0.2</b>	<b>0.7</b>	<b>0.4</b>	<b>-1.9</b>	<b>-4.3</b>	<b>1.5</b>

結果および考察

**結果**

【小学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、男女ともに全体的に横ばい傾向となりました。同一集団の経年変化については、小4男子を除き、すべての学年・性別で数値が低下しました。(0.1~1.5ポイント)

【中学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、中3男子・中1女子を除き、すべての集団で数値が上昇しました。(0.3~1.7ポイント) 同一集団の経年変化については、男子では、すべての学年で数値が上昇しました。(0.2~0.7ポイント) 逆に、中2女子は、4.3ポイント低下しました。

**考察**

小学校については、男女ともに大幅な低下傾向が見られます。(※数値自体が高いことには留意しなければならない) 前述 (P. 11) 同様に、学年が上がるにつれ「運動やスポーツ」の重要性を感じにくくなっている可能性があると考えられます。逆に、中学校では、男女ともに改善傾向が見られ、成長とともに「運動やスポーツ」の重要性をより意識するようになっていくことが示唆されました。しかし、中2女子は、4.3ポイント低下しており、成長段階における心身の変化等や学習・運動の負担等も要因の1つとして考えられます。

③体育・保健体育の授業が「楽しい」または「やや楽しい」と回答する児童生徒の割合 (%)  
 <小学校>

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
R6 結果	96.1	96.1	94.8	93.2	93.6	93.6	91.4	84.6
前年集団との差	-0.6	<b>1.1</b>	-0.2	-0.7	-3.0	<b>0.6</b>	<b>1.6</b>	-3.0

同一集団の経年変化

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
前年時の値		96.7	95.0	95.0		96.6	93.0	89.8
前年時との差		<b>-0.6</b>	<b>-0.2</b>	<b>-1.8</b>		<b>-3.0</b>	<b>-1.4</b>	<b>-5.2</b>

<中学校>

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
R6 結果	94.3	93.1	95.1	87.5	82.8	82.7
前年集団との差	<b>0.6</b>	-0.1	<b>0.3</b>	<b>0.4</b>	<b>0.5</b>	-4.0

同一集団の経年変化

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
前年時の値	93.9	93.7	93.2	87.6	87.1	82.3
前年時との差	<b>0.4</b>	<b>-0.6</b>	<b>1.9</b>	<b>-0.1</b>	<b>-4.3</b>	<b>0.4</b>

結果および考察

**結果**

【小学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、男女ともに半数以上の集団において数値が低下しました。(最大は3.0ポイント)さらに、同一集団の経年変化についても、すべての学年・性別で数値が低下しました。(0.2～5.2ポイント)

【中学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、全体的に横ばい傾向でしたが、中3女子は数値が大きく低下しました。(4.0ポイント)同一集団の経年変化については、中3男子では、1.9ポイント上昇し、中2女子は、4.3ポイント低下しました。

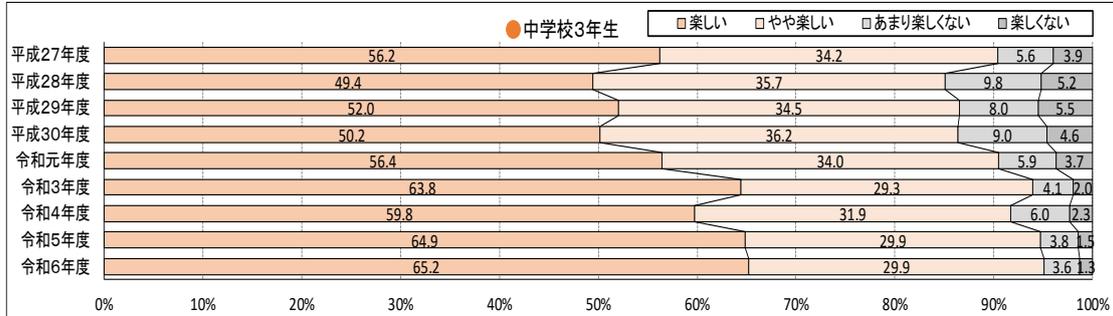
**考察**

前述(P.12)の内容にも関連し、小学校については、男女ともにすべての学年で低下傾向が見られます。(※数値自体が高いことには留意しなければならない)学年が上がるにつれ、学習内容が「遊び中心」から「技能中心」に変化し、楽しさが減少している可能性も要因の1つとして考えられます。逆に、中学校では、男女間の意識の差が顕著となっており、特に女子において、競技性が増す学習内容に適応できない生徒が増加している可能性が考えられます。

<調査・分析結果>

【参考1】「授業に対する捉え」と「助け合い・教え合い」とのクロス集計

「保健体育（体育）の授業は楽しいですか」 ※図は中学校3年生男子の例



「体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで『できたり、わかったり』することがありますか」とのクロス集計

R6_中3男子 (1,186名)	いつもある	だいたいある	あまりない	まったくない
楽しい (770名)	<b>55.5%</b> (427名)	<b>41.9%</b> (323名)	2.5% (19名)	0.1% (1名)
やや楽しい (348名)	<b>23.0%</b> (80名)	<b>63.8%</b> (222名)	12.1% (42名)	1.1% (4名)
あまり楽しくない (44名)	9.1% (4名)	59.1% (26名)	31.8% (14名)	0% (0名)
楽しくない (13名)	0% (0名)	53.8% (7名)	23.1% (3名)	23.1% (3名)

【考察】

体育・保健体育の授業に対して、肯定的に捉えている（「楽しい」、「やや楽しい」と回答）児童生徒は、それと同時に、体育・保健体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで『できたり、わかったり』することが多いと捉えている（「いつもある」、「だいたいある」と回答）傾向が見られます。

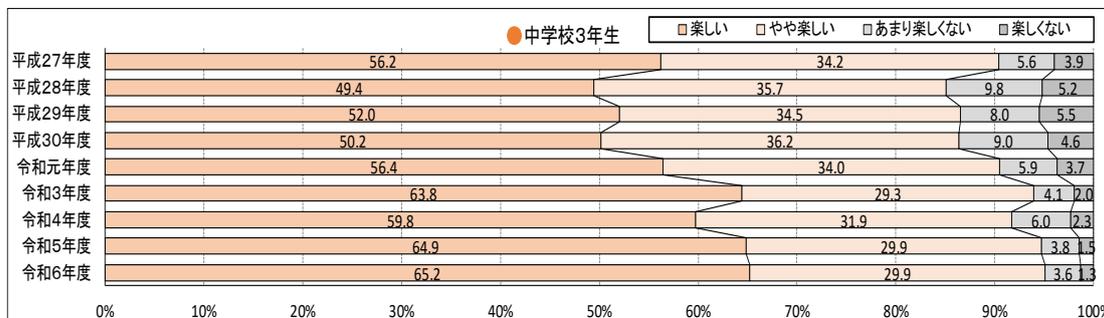
その一方で、体育・保健体育の授業に対して、肯定的に捉えていない（「あまり楽しくない」、「楽しくない」と回答）児童生徒も、同質問に対して、過半数が「だいたいある」と回答しています。

つまり、授業の楽しさまでにはつながらないものの、場面によって、仲間との助け合いや教え合いを有効に感じていることを示しています。

<調査・分析結果>

【参考2】「授業に対する捉え」と「ICT活用」とのクロス集計

「保健体育（体育）の授業は楽しいですか」 ※図は中学校3年生男子の例



「保健体育の授業で、タブレットなどのICTを活用することで『できたり、わかったり』することがありますか」とのクロス集計

R6_中3男子 (1,186名)	いつも ある	だいたい ある	あまり ない	まったく ない	ICTを活用 していない
楽しい (770名)	<b>40.4%</b> (311名)	<b>46.4%</b> (357名)	8.4% (65名)	1.0% (8名)	3.8% (29名)
やや楽しい (348名)	<b>18.7%</b> (65名)	<b>60.1%</b> (209名)	14.1% (49名)	2.6% (9名)	4.6% (16名)
あまり楽しくない (44名)	11.4% (5名)	52.3% (23名)	29.5% (13名)	6.8% (3名)	0.0% (0名)
楽しくない (13名)	7.7% (1名)	38.5% (5名)	30.8% (4名)	15.4% (2名)	7.7% (1名)

【考察】

体育・保健体育の授業に対して、肯定的に捉えている（「楽しい」、「やや楽しい」と回答）児童生徒は、それと同時に、体育・保健体育の授業で、タブレットなどのICTを活用することで『できたり、わかったり』することが多いと捉えている（「いつもある」、「だいたいある」と回答）傾向が見られます。

その一方で、前述（P14）の結果と同様に、体育・保健体育の授業に対して、肯定的に捉えていない（「あまり楽しくない」、「楽しくない」と回答）児童生徒の多くが、同質問に対して「だいたいある」と回答しています。

つまり、授業の楽しさまでにはつながらないものの、授業内でICT活用を有効に感じていることを示しています。

(3) 運動習慣・生活習慣に係る内容

①朝食を「食べない」または「食べない日が多い」と回答する児童生徒の割合 (%)  
 ※割合が低下するほど、よい傾向

<小学校>

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
R6 結果	4.3	5.0	4.3	7.1	3.1	3.4	5.4	6.7
前年集団との差	0.6	2.0	<b>-0.8</b>	1.0	0.0	<b>-0.3</b>	0.9	1.5

同一集団の経年変化

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
前年時の値		3.7	3.0	5.1		3.1	3.7	4.5
前年時との差		<b>1.3</b>	<b>1.3</b>	<b>2.0</b>		<b>0.3</b>	<b>1.7</b>	<b>2.2</b>

<中学校>

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
R6 結果	5.6	7.5	7.5	7.2	8.8	9.9
前年集団との差	<b>-0.3</b>	0.4	<b>-2.0</b>	<b>-0.8</b>	0.4	1.1

同一集団の経年変化

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
前年時の値	6.1	5.9	7.1	5.2	8.0	8.4
前年時との差	<b>-0.5</b>	<b>1.6</b>	<b>0.4</b>	<b>2.0</b>	<b>0.8</b>	<b>1.5</b>

結果および考察

**結果**

【小学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、小5男子、小4女子を除き、すべての集団において数値が上昇しました。(小3女子は変化なし) さらに、同一集団の経年変化についても、すべての学年・性別で数値が上昇しました。(0.3~2.2ポイント)

【中学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、二極化する結果となりました。しかし、同一集団の経年変化については、中1男子を除き、数値が上昇しました。(0.4~2.0ポイント)

**考察**

小・中学校共通して、年々、朝食を摂らない児童生徒の割合が増えています。中1男子に限って朝食欠食率が下がっているものの、学年が上がるにつれ、生活の乱れが進行し、朝食欠食の傾向が強まっていると推察されます。

②1日の睡眠時間が「6時間未満」と回答する児童生徒の割合 (%)

※割合が低下するほど、よい傾向

<小学校>

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
R6 結果	1.8	1.5	1.3	2.1	0.3	0.9	1.3	1.6
前年集団との差	0.1	0.2	<b>-0.8</b>	<b>-0.4</b>	<b>-0.5</b>	0.0	0.2	<b>-1.6</b>

同一集団の経年変化

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
前年時の値		1.7	1.3	2.1		0.8	0.9	1.1
前年時との差		<b>-0.2</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>		<b>0.1</b>	<b>0.4</b>	<b>0.5</b>

<中学校>

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
R6 結果	2.4	3.7	4.3	3.5	4.6	7.0
前年集団との差	<b>-0.9</b>	<b>-2.6</b>	<b>-3.6</b>	<b>-1.6</b>	<b>-3.7</b>	<b>-4.6</b>

同一集団の経年変化

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
前年時の値	2.5	3.3	6.3	3.2	5.1	8.3
前年時との差	<b>-0.1</b>	<b>0.4</b>	<b>-2.0</b>	<b>0.3</b>	<b>-0.5</b>	<b>-1.3</b>

結果および考察

**結果**

【小学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、男女ともに半数以上の集団において数値が低下しました。同一集団の経年変化については、男子では、小4において数値が低下（小5、6は変化なし）しました。女子では、すべての学年で数値が上昇しました。

【中学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、すべての学年・性別で数値が大きく低下しました。（最大は4.6ポイント）同一集団の経年変化についても、半数以上の集団において、数値が低下しました。（最大は2.0ポイント）

**考察**

小学校については、特に女子において「睡眠時間」の短縮傾向が顕著に表れています。（男子は横ばい傾向）逆に、中学校では、全体的に改善傾向が見られます。近年、コロナ禍による生活リズムの乱れが指摘されていますが、社会活動の正常化により、睡眠リズムが改善された可能性も一理あると考えられます。

③ 1週間の総運動時間が「0分」と回答する児童生徒の割合 (%)

※割合が低下するほど、よい傾向

<小学校>

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
R6 結果	9.2	7.8	5.6	9.6	9.2	7.9	8.8	16.2
前年集団との差	5.4	4.6	2.4	5.2	5.8	4.2	3.5	9.4

同一集団の経年変化

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
前年時の値		3.8	3.2	3.2		3.4	3.7	5.3
前年時との差		4.0	2.4	6.4		4.5	5.1	10.9

<中学校>

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
R6 結果	6.5	7.1	12.1	13.6	17.2	24.8
前年集団との差	3.8	-1.0	5.2	5.6	2.9	11.3

同一集団の経年変化

	男子			女子		
	中1	中2	中3	中1	中2	中3
前年時の値	4.4	2.7	8.1	6.8	8.0	14.3
前年時との差	2.1	4.4	4.0	6.8	9.2	10.5

結果および考察

**結果**

【小学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、すべての学年・性別で数値が大きく上昇しました。(2.4~9.4ポイント) 同一集団の経年変化についても、すべての学年・性別において、数値が大きく上昇しました。(最大は10.9ポイント)

【中学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、中2男子を除き、すべての学年・性別で数値が大きく上昇しました。(2.9~11.3ポイント) 同一集団の経年変化については、すべての学年・性別において、数値が大きく上昇しました。(10.5ポイント)

**考察**

小・中学校共通して、「運動時間」の減少傾向が顕著に見られます。ゲームやスマートフォンの普及、さらには「ボール遊び禁止」等の公園が増加するなど、外遊び環境の変化も伴い、運動習慣の未定着が大きな要因の1つと推察されます。

④平日における1日あたりの総スクリーンタイムの時間別割合 (%)

<小学校>

R 6 結果と前年集団との差

(上段・・・R 6 結果、下段・・・前年集団との差)

R 6 結果	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
5時間以上	16.1 (-3.9)	19.5 (1.4)	19.0 (-2.4)	23.6 (5.0)	13.2 (2.1)	13.1 (0.3)	16.2 (0.7)	18.2 (-1.8)
4～5時間	10.5 (0.2)	8.4 (-1.2)	8.4 (-2.2)	11.2 (2.2)	7.6 (-1.4)	8.4 (0.6)	7.8 (-0.1)	11.4 (1.1)
3～4時間	10.4 (-0.9)	12.8 (0.3)	13.7 (-1.5)	15.1 (0.3)	10.0 (-1.1)	11.0 (0.4)	12.3 (-1.2)	15.0 (0.1)
2～3時間	15.2 (-0.2)	16.4 (-1.6)	19.3 (0.1)	19.0 (-7.2)	14.9 (2.4)	15.6 (-1.9)	18.3 (0.2)	18.4 (-1.7)
1～2時間	23.4 (-0.8)	22.2 (-4.0)	23.1 (-0.4)	18.4 (-5.0)	23.7 (-6.0)	25.7 (-3.4)	25.7 (-0.1)	23.6 (1.5)
1時間未満	14.6 (-0.6)	11.8 (-1.8)	9.2 (0.5)	5.9 (-1.5)	20.2 (-0.8)	17.0 (-2.4)	12.8 (-1.7)	8.5 (-0.6)
まったく見ない	3.4 (-0.2)	2.3 (0.4)	1.1 (-0.3)	0.6 (0.0)	6.0 (0.5)	2.9 (0.1)	1.8 (-0.3)	0.9 (0.1)

同一集団の経年変化

	男子				女子			
	小3	小4	小5	小6	小3	小4	小5	小6
5時間以上	-	-0.5	1.0	2.2	-	2.0	3.4	2.8
4～5時間	-	-1.9	-1.2	0.6	-	-0.6	0.0	3.5
3～4時間	-	1.5	1.1	-0.1	-	0.0	1.7	1.5
2～3時間	-	1.1	1.3	-0.3	-	3.0	0.8	0.3
1～2時間	-	-2.0	-3.1	-5.0	-	-4.0	-3.4	-2.2
1時間未満	-	-3.3	-4.5	-2.8	-	-4.0	-6.6	-5.9
まったく見ない	-	-1.2	-0.8	-0.8	-	-2.6	-1.0	-1.2

<中学校>

R 6 結果と前年集団との差

(上段・・・R 6 結果、下段・・・前年集団との差)

R 6 結果	男子			女子		
	中 1	中 2	中 3	中 1	中 2	中 3
5時間以上	<b>20.4</b> (5.3)	<b>17.4</b> (-2.6)	<b>21.9</b> (2.9)	<b>21.4</b> (3.9)	<b>19.0</b> (0.1)	<b>19.2</b> (2.8)
4～5時間	<b>9.8</b> (-0.9)	<b>12.2</b> (-0.4)	<b>13.1</b> (1.5)	<b>11.5</b> (0.6)	<b>14.6</b> (2.9)	<b>13.8</b> (0.7)
3～4時間	<b>18.6</b> (-0.3)	<b>20.2</b> (-0.9)	<b>22.3</b> (-1.5)	<b>18.2</b> (-1.1)	<b>18.4</b> (-1.9)	<b>22.4</b> (-0.1)
2～3時間	<b>23.9</b> (-4.0)	<b>26.4</b> (1.0)	<b>24.9</b> (-1.6)	<b>25.0</b> (0.1)	<b>26.3</b> (0.3)	<b>24.6</b> (0.1)
1～2時間	<b>19.2</b> (-1.3)	<b>17.9</b> (1.1)	<b>14.3</b> (-2.5)	<b>17.2</b> (-4.4)	<b>16.8</b> (-0.2)	<b>14.4</b> (-4.0)
1時間未満	<b>5.5</b> (-0.7)	<b>3.0</b> (-0.7)	<b>2.4</b> (0.4)	<b>5.2</b> (-0.3)	<b>3.3</b> (-1.8)	<b>3.7</b> (-1.2)
まったく見ない	<b>0.3</b> (-0.5)	<b>0.2</b> (0.0)	<b>0.2</b> (-0.2)	<b>0.1</b> (0.0)	<b>0.0</b> (-0.2)	<b>0.3</b> (0.1)

同一集団の経年変化

	男子			女子		
	中 1	中 2	中 3	中 1	中 2	中 3
5時間以上	<b>1.8</b>	<b>2.3</b>	<b>1.9</b>	<b>1.3</b>	<b>1.5</b>	<b>0.3</b>
4～5時間	<b>0.8</b>	<b>1.6</b>	<b>0.4</b>	<b>1.3</b>	<b>3.7</b>	<b>2.1</b>
3～4時間	<b>3.8</b>	<b>1.3</b>	<b>1.1</b>	<b>3.3</b>	<b>-0.9</b>	<b>2.1</b>
2～3時間	<b>-2.2</b>	<b>-1.5</b>	<b>-0.6</b>	<b>4.9</b>	<b>1.4</b>	<b>-1.4</b>
1～2時間	<b>-4.3</b>	<b>-2.5</b>	<b>-2.5</b>	<b>-4.9</b>	<b>-4.7</b>	<b>-2.7</b>
1時間未満	<b>-1.9</b>	<b>-3.2</b>	<b>-1.2</b>	<b>-4.0</b>	<b>-2.2</b>	<b>-1.3</b>
まったく見ない	<b>-0.4</b>	<b>-0.6</b>	<b>0.0</b>	<b>-0.4</b>	<b>-0.3</b>	<b>0.1</b>

## 結果および考察

### 結果

#### 【小学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、男女ともに、学年が上がるにつれ、スクリーンタイムの総時間が多いことが顕著に結果として表れました。（※小6男子においては「5時間以上」の割合が23.6%（5.0%増））同一集団の経年変化については、男女ともに、「1～2時間」、「1時間未満」、「まったく見ない」の割合はすべての学年で低下し、逆に、「3～4時間」、「4～5時間」、「5時間以上」の割合が全体的に上昇しました。

#### 【中学校】

令和6年度の結果については、前年集団の数値と比較し、特に女子において、長時間使用になればなるほど割合が上昇しました。また、中1男女ともに、「5時間以上」が20%を超えるなど、学年の差はあまりなく、中1の段階からスクリーンタイムの総時間が長い傾向が顕著として表れました。同一集団の経年変化については、男女ともに、「1～2時間」、「1時間未満」、「まったく見ない」の割合が一部を除き、すべての学年で低下し、逆に、「3～4時間」、「4～5時間」、「5時間以上」の割合が一部を除き、すべての学年で上昇しました。

### 考察

小・中学校ともに、「1～2時間」以下の割合が減少し、逆に「3～4時間」以上の割合が上昇する傾向が見られます。この「スクリーンタイムの総時間」の増加が、その他の「睡眠時間」の減少、「運動時間」の減少、さらには、「朝食欠食」につながる1つの大きな要因と考えられます。また、家庭環境として、共働き世帯の増加や親の教育観の変化等により、子どもが自由にスマートフォンを使用できる頻度が増加している可能性が高いことも推察されます。

## 2 調査結果から見られた本市の成果・課題ならびに今後の取り組みについて(まとめ)

体力等調査は、児童生徒の体力や運動能力を数値化して評価するものであります。目に見える成果(結果)に目が向きがちですが、体力向上や健康の保持増進を支える土台となるものは、「内面的な心の成長」であると考えます。それらを踏まえ、調査結果から見えた本市の成果・課題および今後の取り組みについて、次のとおり考えます。

	成果・課題	今後の取り組み
(1) 体力 (各種目・合計点) に係る内容	<p>体力下位層(D・E)の割合について、前年集団と比較した際、小学校女子を除き、全体的に改善傾向が見られました。また、全国平均との比較結果(対象:小5、中2)についても、小5女子を除き、よい結果が見られました。(※全国結果はR5を引用)</p> <p>各種目に着目すると、男女共通して、小学校では「反復横跳び」、「ソフトボール投げ」、中学校では「握力」に課題が見られました。</p>	<p>まずは、児童生徒の体力の実態把握(本市ならびに自校の傾向)が必要であると考えます。</p> <p>それらを踏まえ、特に課題となっている体力要素の向上を目的とした準備運動やドリルゲーム、段階的指導(下位教材)を導入し、計画的に実施していくなど、日々の体育・保健体育授業の改善を図ってまいります。</p>
(2) 内面 (意識) に係る内容	<p>「運動やスポーツが好き」、「運動やスポーツは大切」、「体育・保健体育の授業が好き」の割合については、小学校において、同一集団の経年変化で比較した際、ほぼすべての学年・性別で数値が低下しました。逆に、中学校においては、半数を超える学年・性別で数値が上昇しました。</p> <p>また、「体育・保健体育の授業に対する捉え」と「仲間との助け合い・教え合い」、「ICT活用」に関するクロス集計の結果、授業の楽しさまでにはつながらないものの、場面によって、「仲間との助け合い・教え合い」、「ICT活用」を有効に感じている児童生徒が一定数いることが明らかとなりました。</p>	<p>まずは日々の体育・保健体育授業の改善の他なりません。「できたから楽しい」、「できないから楽しくない」という結果ありきの指導とならないよう、チャレンジ要素を多く取り入れた段階的な指導を心掛け、少しでも「できた」という成功体験を多く実感させることが大切であります。結果だけではなく、過程や挑戦を重視した評価となるよう、教師の指導改善を図ってまいります。</p>

	成果・課題	今後の取り組み
(3) 運動習慣・生活習慣に係る内容	<p>「朝食喫食率」については、同一集団の経年変化で比較した際、小・中学校ともに改善傾向は見られませんでした。</p> <p>「睡眠」については、同一集団の経年変化で比較した際、中学校において、若干の改善傾向が見られました。</p> <p>「1週間の総運動時間が「0分」と回答する児童生徒の割合」については、小・中学校ともに、同一集団の経年変化で比較した際、すべての学年で数値が上昇しました。(※数値が低下するほどよい傾向)</p> <p>「1日あたりの総スクリーンタイム」については、小中ともに長時間の使用割合が大幅に増加しており、小学校5年～中学校3年では、男女ともに、「5時間以上」の割合が20%前後を示すなど、非常に数値が高いことが明らかとなりました。</p>	<p>「朝食喫食率」、「睡眠時間の確保」、「運動時間の確保」等、すべてに対し、「スクリーンタイムの増加」が大きな影響を与えていることが推測できます。児童生徒、教師はもちろんのこと、まずは、保護者に現状を周知するとともに、生活改善に前向きに取り組んでいただくなど、家庭との連携が急務であると考えます。</p> <p>その上で、運動習慣の定着に向けて、運動そのものが義務的なものにならないよう、日々の活動(授業含む)の中に、子どもが夢中になる「遊びの要素」を多く取り入れるなど、指導改善を図ってまいります。</p> <p>また、生活習慣の改善に向けて、学校現場において、栄養教諭と連携した食教育を展開するなど、連携した指導体制を構築していきます。</p> <p>さらには、児童生徒が、自身の健康について「自分事」として捉えることができるよう、活動の事前事後で身体の変化を実感させたり、視覚化されたデータを活用したり、さらには身近な生活と関連付けさせたり、教科を中心とした学校教育活動全体の指導改善を図ってまいります。</p>